RS232C バッファインターフェイス

RSBUFi

ユーザーズマニュアル

WP-07-110401

第16版　平成23年4月

データリンク株式会社

⚠ 安全にお使いいただくために必ずお読みください

火災の原因になります

- 正しい電源電圧でお使いください。
- 湿気や埃、油煙、湯気が多い所には置かないでください。
- 暖房器具の近くや直射日光があたる場所など、高温の場所で使用したり放置しないでください。
- たこ足コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしないでください。
- 電源ケーブルに加工や熱を加えたり、重いものを載せるなどで傷をつけないでください。
- 内部に異物を入れないでください。(水厳禁)
- 本体及び付属品を改造しないでください。
- 排気口のある機種は、排気口を塞いで使用しないでください。

感電や怪我の原因になります

- 正しい電源電圧でお使いください。
- 電源ケーブルに加工や熱を加えたり、重いものを載せるなどで傷をつけないでください。
- 内部に異物を入れないください。
- 本体及び付属品を改造しないでください。
- 濡れた手でコンセントにさわらないでください。
- 雷発生時は、本製品に触れたり周辺機器の接続をしたりしないでください。
- 設置、移動の時は電源プラグを抜き、周辺機器の接続を切り離してください。

故障やエラーの原因になります

- 本体及び付属品を改造しないでください。
- 排気口のある機種は、排気口を塞いで使用しないでください。

<u>万一、発熱を感じたり、煙が出ていたり、変なにおいがするなどの異常を確認した場合は、ただちに電源を外し使用を中止してお買いあげの販売店にご連絡下さい。</u>

- 本書の内容および製品の仕様、意匠等については、改良のために予告なく変更することがあります。
- 本書の内容については、万全を記して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、ご連絡下さいますようお願い致します。

目 次

序 章 はじめに

序－1 梱包内容の確認

RSBUFiには以下の品目が含まれます。 品目数量をご確認下さい。
不足がある場合は、弊社営業部までご連絡下さい。

◆ RSBUFi本体 1台

◆ AC電源ケーブル 2m 1本
アースが取れる2P-3PのAC電源ケーブルです。
本体側が3P、AC100V側が2Pとアース用コードとなっています。

◆ RS232Cクロスケーブル 1.8m 1本
Dsub25ピンオスとDsub9ピンメスのRS232Cクロスケーブルです。

◆ ターミナルソフトTERM WIN CD-R 1枚
このソフトで条件設定、簡単な動作確認が可能です。
使用方法は本誌巻末をご参照ください。

◆ RSBUFiユーザーズマニュアル（本誌） 1冊

序－2 概要

このマニュアルは、データリンク社製のRS232Cバッファインターフェイスモデル RSBUFiについて説明したものです。
RSBUFiの使用方法、他の機器との接続方法、通信規格の設定について説明してあります。

序－3　本機の特徴

◆ 2チャンネルの調歩同期式RS232Cポートを持っています。

◆ バッファの容量は最大4Mバイト、2Mバイト、1Mバイトの3タイプがあり、入力データ容量により2つのチャンネルへダイナミックに割付られます。

◆ フロー制御として次の方法がディップスイッチで選択できます。
1) XON/XOFF
2) RTS/CTS
3) DTR/DSR

◆ 通信条件は、各チャンネル毎に設定できます。

ボーレイト	50～38400BPS
ストップビット	1/1,5/2
データ長	5/6/7/8
パリティ	偶/奇/無し

◆ JIS8/EBCDICコード変換機能の設定が可能です。

◆ 5ビット国際テレックスコードと8ビット系の変換機能の設定が可能です。

◆ 6ビット国内テレックスコードと8ビット系の変換機能の設定が可能です。

◆ ライン単位読み出しが設定可能です。

序－4　従来機種から変更された点

VER1.0xの機能から以下の点が変更されております。基本的動作仕様は同一です。
1) フロー制御のXON/XOFF出力、RTS、DTR制御のタイミング
2) LED点灯のタイミング
3) データ送受信、コードコンバート時の処理速度の向上

第1 章　物理的仕様

1 －1　ハード 構成、仕様

CPU	TMPZ84C810 (東芝)
RS232Cドライバ	75188 (テキサスインスツルメンツ) 相当
RS232Cレシーバ	75189 (テキサスインスツルメンツ) 相当
バッファメモリ	HM514400 (日立) 相当 (4M,2M,1M)
RS232Cコネクタ	Dsub25メス

1 －2　使用環境、消費電流

◆ 動作条件　　温度　±0～50℃
　　　　　　　湿度　30～80% (但し結露なきこと)

◆ 保存条件　　温度　－30～80℃

◆ 入力電圧範囲　AC　85V～132V (50/60Hz)

◆ 消費電流　　＋5V　0.17A
　　　　　　　＋12V　0.02A
　　　　　　　－12V　0.02A
　　　　　　　(電源投入時実測値)

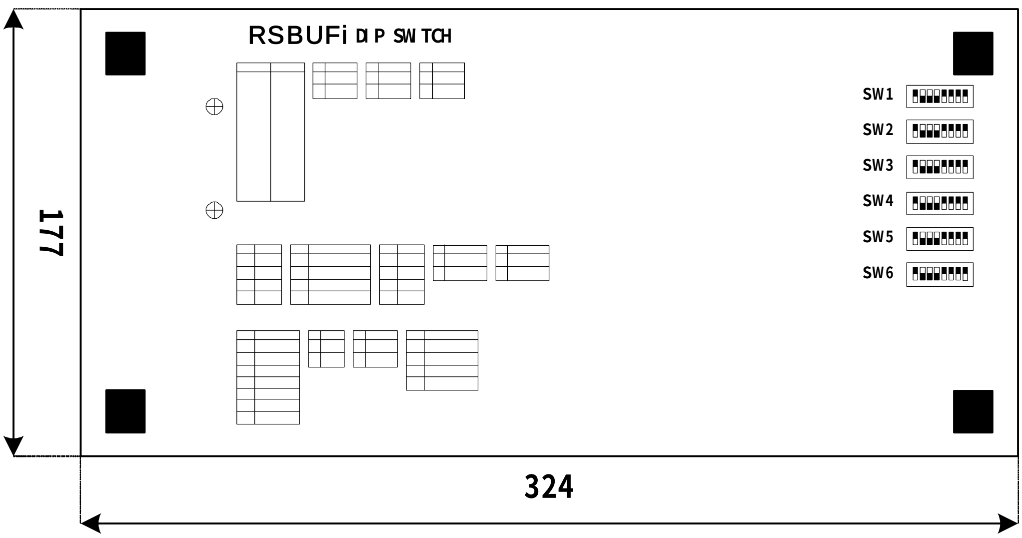
1 －3　　形状、重量

◆ 寸法　　　幅324mm　高さ 42mm　奥行177mm
(ゴム足、コネクタ部等突起物含む)

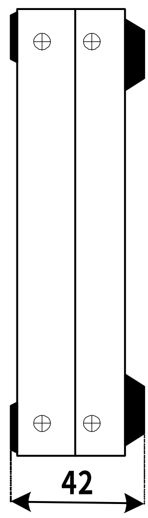
◆ 重量　　　1.2kg

◆ 外観図

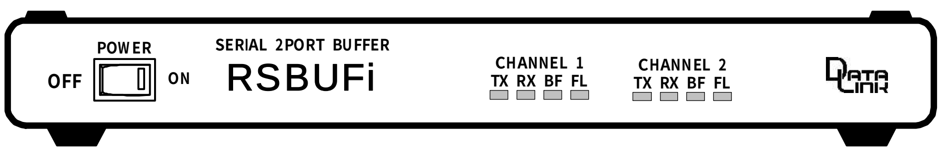
底面



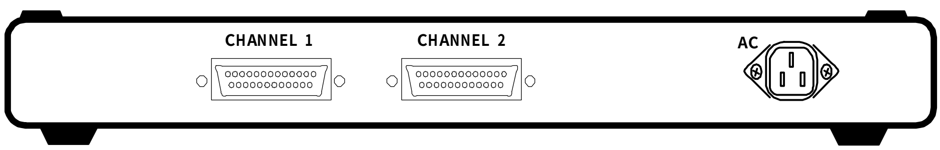
側面



前面



後面



縮尺Free
(単位:mm)

第2 章　インターフェイス仕様

2 ―1　RS232C コネクタピンアサイン

RSBUFi の RS232C ポートは、DTE 配列に準拠しています。パソコンなど DTE 配列の機器と接続する場合はクロスケーブルとなります。また、モデムなど DCE 配列の機器と接続する場合はストレートケーブルとなります。

ピン番号	信号名	方向	説明
1	FG	―	フレームグランド (※1)
2	TXD	→	送信データ
3	RXD	←	受信データ
4	RTS	→	送信要求
5	CTS	←	送信可能
6	DSR	←	データセットレディ
7	SG	―	シグナルグランド
9	POWER	→	外部電源供給 (※2)
14	POWER	→	外部電源供給 (※3)
20	DTR	→	データターミナルレディ

※ 記載されていないピンは、全て NC (未接続)

※ 方向 →：　RSBUFi からの出力信号

　　　　←　RSBUFi への入力信号

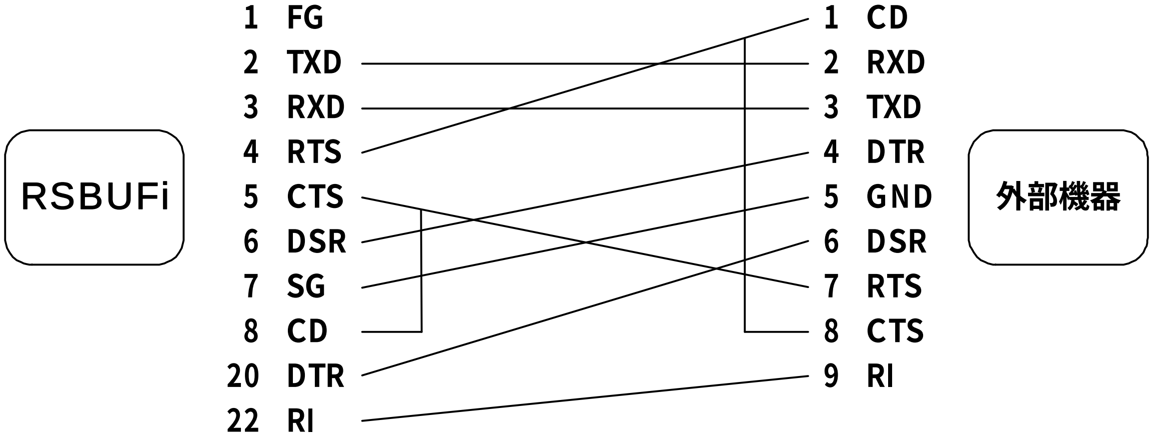
※1　　　：FG は RSBUFi の匡体に接続されています。

※2，※3　：外部接続機器用＋5V 出力　供給可能電流容量 0.8A

(2 チャンネルトータル)

2－2　外部機器がDTE配列時の接続

RSBUFiとDsub9ピンで以下のような配列の外部機器(パソコンなど)を接続する場合は、標準添付のクロスケーブルを使用します。



※ 接続機器によっては、8番CD信号が必要なものもあります。その際は、CTS信号とショートして接続します。標準添付のクロスケーブルも上記結線になっています。

※ 1番FGと両コネクタのシェルも接続されています。

2－3　外部機器がDCE配列時の接続

RSBUFiとDCE配列の外部機器(モデムなど)を接続する場合は、ストレートケーブルを使用します。

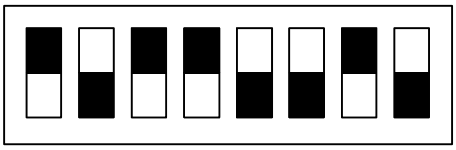


※ 接続機器によっては、信号名の表現が逆のものがあります。接続機器のインターフェイスピンアサインをご確認ください。

第3章　ディップスイッチの設定

ディップスイッチはRSBUFiの底面に位置します。
ディップスイッチは電源投入時にのみ取り込まれ、各LSIを初期化します。
設定の変更を行った場合は電源を再投入してください。
通信規格、各機能の選択は、2つのチャンネル各々個別に設定できます。
説明中でスイッチの位置を表す0/1の意味は以下の通りです。

0：下：OFF
1：上：ON



3－1　通信速度

各チャンネルの通信速度を設定します。
各チャンネルに接続されているRS232C機器に合わせます。

SW1:チャンネル1　SW4:チャンネル2

12345	通信速度
00000	50
00001	75
00010	100
00011	110
00100	150
00101	200
00110	300
00111	600
01000	1200
01001	1800
01010	2000
01011	2400
01100	3200
01101	3600
01110	4800
01111	7200
10000	8000
10001	9600
10010	12000
10011	19200
10100	38400

3 －2　フロー制御

2つの装置間の通信同期をとるために以下の何れかを選択します。
◆ ソフトウェアによる同期として [XON/XOFF制御]
◆ ハードウェアによる同期として [RTS/CTS制御] または [DTR/DSR制御]
XON/XOFF機能を選択し、RSBUFiがデータを受信している時にバッファ残が8Kバイトになると該当チャンネルにXOFFコードが送出されます。
RTS/CTS, DTR/DSR機能を選択し、RSBUFiがデータを受信している時にバッファ残が256バイトになると該当チャンネルの制御線をビジーにします。
16Kバイト以上になると制御線がレディとなります。
通信制御機能を選択せずに使用した場合で、RSBUFiのデータバッファ容量を超えるデータが受信された時は、データは上書きされ古いデータが消滅します。

SW1:チャンネル 1　　　SW4:チャンネル 2

No	通信制御	0	1
6	XON /XOFF	D	E
7	RTS /CTS	D	E
8	DTR /DSR	D	E

※D ＝非選択
　E ＝選択

3 －3　パリティ

各チャンネルのパリティを設定します。
各チャンネルに接続されているRS232C機器に合わせます。

SW2:チャンネル 1　　　SW5:チャンネル 2

1　2	パリティ
0　0	無し
0　1	無し
1　0	偶数 (EVEN)
1　1	奇数 (ODD)

3 －4　データ長とコード変換

◆ 5ビットを指定した場合、そのチャンネルの入出力データは、5ビット国際テレックスコードとして処理されます。その結果、もう片方のチャンネルに8ビットJISを指定すると、RSBUFi内で5/8のコード変換が行われます。
◆ 6ビットを指定した場合、そのチャンネルの入出力データは、6ビット国内テレックスコードとして処理されます。その結果、もう片方のチャンネルに8ビットJISを指定すると、RSBUFi内で6/8のコード変換が行われます。

- ◆ JIS7ビットのSO/SI制御は行われず、これらのコードを受信するとRSBUFiは、そのままもう一方のチャンネルに送出します。
- ◆ JIS/EBCDICの変換を行う場合は、2チャンネル共に8ビット長を選択する必要があります。
- ◆ コード変換により未定義のコードが検出された場合はNULLとなります。

ご注意

5ビット/8ビットのコード変換、6ビット/8ビットのコード変換、JIS/EBCDICのコード変換以外の異なるビット長を選択した場合は、コード変換は行われず、ビットをマスクしてそのままもう一方のチャンネルに送出します。

SW2:チャンネル1　　SW5:チャンネル2

3	4	ビット	コード
0	0	5	国際テレックス　英(大)、数字
0	1	6	国際テレックス　英(大)、数字
1	0	7	JIS7 /ASCII　英(大小)
1	1	8	JIS8 /EBCDIC　英(大小)、かな

3－5　ストップビット

各チャンネルのストップビットを設定します。
各チャンネルに接続されているRS232C機器に合わせます。

SW2:チャンネル1　　SW5:チャンネル2

5	6	ストップビット
0	0	1
0	1	1.5
1	0	2
1	1	2

3－6　電源投入時のXON/XOFF状態

電源投入時該当チャンネルのXON/XOFF状態を設定します。XON状態を選択すると、送信可能となります。XOFF状態を選択すると、接続相手機器からXOFFを受信した時と同様の送信停止状態になります。

SW2:チャンネル1　　SW5:チャンネル2

7	XON /XOFF状態
0	XOFF状態にする
1	XON状態にする

この機能はフロー制御のXON/XOFFを選択した場合のみ有効です。

3 －7 電源投入時の XOFF コードの送出

電源投入時に、該当チャンネルに XOFF コードを送出する機能を設定します。この機能を選択すると、通信に先立って該当チャンネルから XOFF コードを接続相手機器へ送信します。

SW2:チャンネル 1　　SW5:チャンネル 2

8	XOFFの送出
0	行わない
1	行う

この機能はフロー制御の XON/XOFF を選択した場合のみ有効です。

3 －8 ライン単位読み出し

この機能を設定すると、RSBUFi は指定コードを送出後、自動的に XOFF 状態になり、接続機器から次の XON を受信するまでデータの送出を停止します。
処理速度の遅い言語で受信処理をする場合、1ライン毎に RSBUFi からの送信が止まることを利用して同期を取ることができます。

SW3:チャンネル 1　　SW6:チャンネル 2

1234	指定コード
1000	CR (0DH)
1001	LF (0AH)
1010	ETX (03H)
1011	NULL (00H)
1100	FF (FFH)
1101	EOT (04H)
1110	―――
1111	―――
0XXX	ライン読み出し無し

この機能はフロー制御の XON/XOFF を選択した場合のみ有効です。

3 －9 バッファクリア機能

この機能を設定した場合、データ中に DC2 (12H)、DC4 (14H) を検出すると RSBUFi 内のバッファをクリアします。

DC2: このコードを受信したチャンネルのバッファのみをクリアします。
DC4: 両チャンネルのバッファをクリアします。

SW3:チャンネル 1　　SW6:チャンネル 2

5	バッファクリア機能
0	無し
1	有り

3－10 JIS8/EBCDICのコード指定

該当チャンネルのコードが、JIS8かEBCDICであるかを指定します。
2つのチャンネルで異なる指定を行うと、RSBUFi内でJIS8とEBCDICのコード変換を行います。
尚、ビット長は両チャンネル共に8ビットを選択する必要があり、これ以外を選択するとコード変換は行われません。

SW3:チャンネル1　SW6:チャンネル2

6	JIS8 /EBCDIC
0	JIS8
1	EBCDIC

3－11 テストモードの設定

RSBUFi本体や、接続されている機器との通信を個別に試験する機能を選択します。この設定はハードの結線、通信条件の確認などに使用します。尚、SW3は未使用ですので、通常は必ずOFFでご使用ください。

SW3:未使用

7	8	
0	0	通常使用時
0	1	この設定にはしないで下さい
1	0	この設定にはしないで下さい
1	1	この設定にはしないで下さい

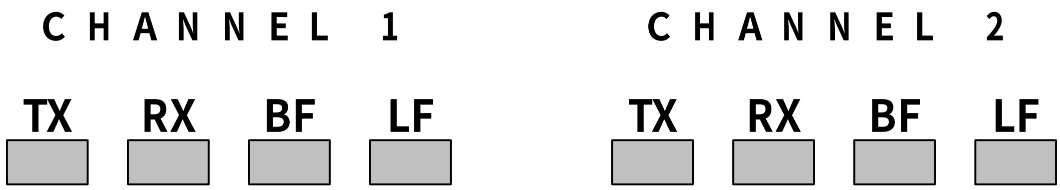
SW6:両チャンネル

7	8	テストモード
0	0	無し (通常使用時)
0	1	チャンネル1へ固定パターンを送出する
1	0	チャンネル2へ固定パターンを送出する
1	1	受信データを同じチャンネルへループバック

固定パターン： THE QUICK BROWN FOX JUMPS OVER THE LAZY DOG.4MB BUFFER
バッファ容量により1MB/2MB/4MBとなります。

第4章　LED

RSBUFiの前面についているLEDは、各チャンネルの動作状況及びバッファの状態を表示します。



TX：RSBUFiからデータ及び制御コードを送信するときに点滅します。

RX：RSBUFiにデータ及び制御コードが受信されたときに点滅します。

BF：内部バッファの残りが48Kバイトになると点灯し、残容量が少ないことを知らせます。但し、FLが点灯中は常に消灯となります。

FL：内部バッファの残容量がフロー制御の範囲になると点灯し、フロー制御が作動します。フロー制御のどのモードも指定しなかった場合は、XON/XOFFの動作に準じます。

第5 章　フロー制御の説明

5 －1　XON/XOFF 機能

ディップスイッチにより XON/XOFF 機能を設定した場合、以下の動作となります。

a) RSBUFi が送信時に制御コード D3 (16 進数の 13) を受信すると、送信を停止します。
RSBUFi が送信時に制御コード D1 (16 進数の 11) を受信すると、送信を再開します。

b) RSBUFi が受信時に入力バッファの残容量が 8K バイトになると、制御コード D3 (16 進数の 13) を送出します。
バッファリングされていたデータが送信され、入力バッファの残容量が 16Kバイト以上になると、制御コード D1 (16 進数の 11) を送出します。

5 －2　RTS/CTS または DTR/DSR 機能

ディップスイッチにより RTS/CTS または DTR/DSR 機能を設定した場合、以下の動作となります。

a) RSBUFi が受信時に入力バッファの残容量が 256 バイトになると、外部機器に対して送信の停止を求め、RTS または DTR を Low にします。
バッファリングされていたデータが送信され、入力バッファの残容量が 16Kバイト以上になると、RTS または DTR を High にします。

b) RSBUFi が送信時に CTS ＝ Low または DSR ＝ Low を検出すると、この機能選択の有無に係わらず送信を停止します。

5 －3　制御信号の端末処理

RSBUFi への入力信号である DSR 及び CTS は、内部で 10K Ωの抵抗を通して＋12V にプルアップ (レディ側) されています。
この結果、これらの信号を使用しない時は、該当端子の処理をする必要がありません。
RSBUFi は、データ線のみの 3 線式 (TX/RX/GND) で接続した場合、これらの信号ラインの端末処理をすることなく送受信を行うことが可能です。

第6章　応用例

6－1　通信速度の変換

例)機器1の通信速度＝9600bps、機器2の通信速度＝1200bpsの場合



チャンネル1の通信速度設定ディップスイッチを9600bps、チャンネル2の通信速度設定ディップスイッチを1200bpsに設定します。

6－2　フロー制御の切り換え

例)機器1のフロー制御がXON/XOFF、機器2のフロー制御がRTS/CTSの場合



チャンネル1のフロー制御設定ディップスイッチをXON/XOFF、チャンネル2のフロー制御設定ディップスイッチをRTS/CTSに設定します。

6－3　データのバッファリング　①

例)フロー制御を使用して、測定器からのデータをバッファリングし、制御器が必要な時に読み出す



1) 制御器のRTSラインをLowにすると、測定器からのデータはRSBUFiのメモリにバッファリングされます。　制御器がRTSラインをHighにすると、RSBUFiのメモリにバッファリングされているデータは制御器へ伝送されます。

2) 制御器からXOFFコードをRSBUFiへ送ります。RSBUFiはXOFFコードを受信すると、以後測定器からのデータをRSBUFiのメモリにバッファリングします。制御器がRSBUFiにXONコードを送ると、RSBUFiのメモリにバッファリングされているデータは制御器へ伝送されます。

6 －4　データのバッファリング　②

例)測定器からのデータをバッファリングする一方、制御器はライン単位でバッファリングされているデータを読み出す

※ BASICなどの比較的実行速度の遅い言語でデータ処理を行う時に使用します。



ディップスイッチの設定

1) フロー制御:　チャンネル 1:　XON/XOFF
　　　　　　　　チャンネル 2:　任意

2) ライン制御:　ラインの終わりを CRに指定

3) 通信条件等:　接続機器、システムに合わせる

PC9801の N88BASICプログラム例

```
10 OPEN "COM:N83XN " AS #1
20 PRINT #1, CHR$ (&H11) ;
30 LINE INPUT #1, A$
40 IF A$= "***"THEN GOTO ***
50 GOTO 20
```

プログラムの説明

10　RS232Cの通信規格を設定しています。XON /XOFF制御としています。

20　RSBUFiに XON (11H) コードを出力し、1ライン分のデータを要求します。

30　A$に 1ライン分のデータを受信します。　RSBUFiは CRコードを出力後、自動的に XOFF 状態になります。

40　A$を評価し処理プログラムを分岐します。

50　再度次の 1ライン分のデータを取りに行きます。　BASICがデータ処理を行っている間、測定器からのデータは RSBUFiのメモリにバッファリングされます。

第7章　トラブルシューティング

7－1　通信ができない

チャンネル1(2)からのデータがチャンネル2(1)へ送信されない。

1) RS232Cケーブルの結線に間違いはありませんか？
   →　[第2章インターフェイス仕様]をご確認ください。

2) 通信条件の設定(通信速度、ビット長、パリティ、ストップビットなど)に間違いはありませんか？
   →　テストモードでチャンネル毎に評価してください。

7－2　送受信データが壊れる

1) 通信条件の設定(通信速度、ビット長、パリティ、ストップビットなど)は正しく行われていますか？

2) ケーブルに破損箇所はありませんか？

3) フロー制御が正しく設定され、メモリの上書きなどが行われないようになっていますか？

4) RS232Cケーブルを延ばし過ぎてはいませんか？

7－3　ユーザサポートのご案内

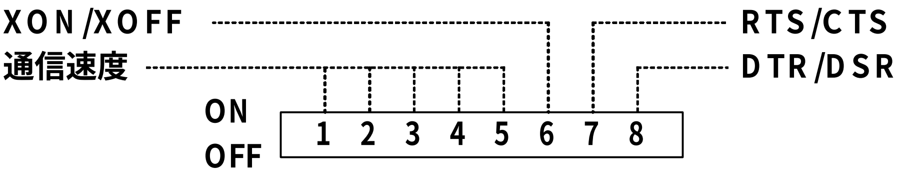
ご購入頂きましたRSBUFiに関するご質問、ご相談は、弊社ユーザサポート課までお問い合わせください。

データリンク株式会社　ユーザサポート課
TEL　04－2924－3841(代)
FAX　04－2924－3791
受付時間　月曜～金曜（祝祭日は除く）
AM9:00～12:00　PM1:00～5:00
E-mail　support@data-link.co.jp

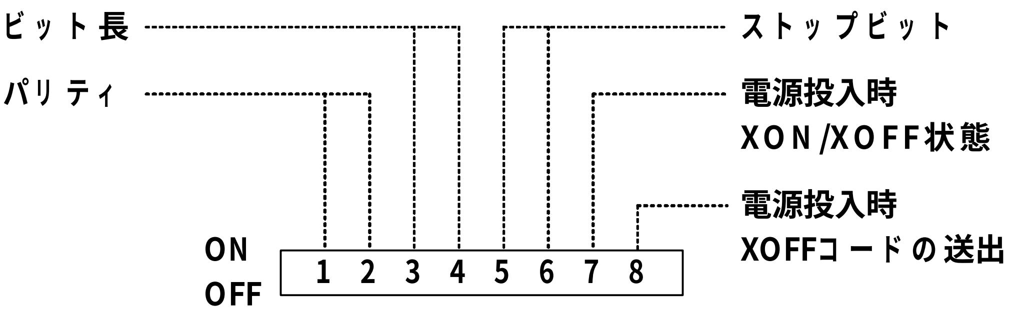
第8章　ディッィップスイッチ一覧表、コード表

8－1　ディップスイッチ一覧表

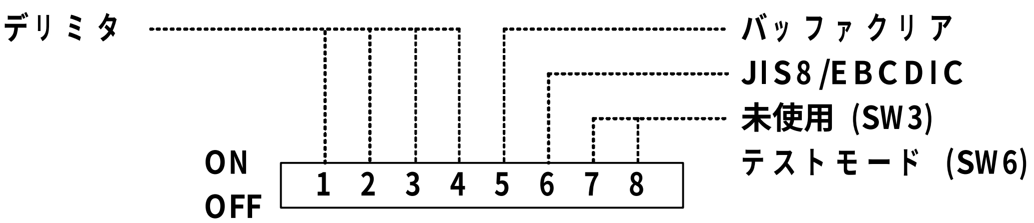
SW1　チャンネル1
SW4　チャンネル2
(通信速度、フロー制御)



SW2　チャンネル1
SW5　チャンネル2
(ビット長、パリティ、ストップビット、XON / XOFFオプション)



SW3　チャンネル1
SW6　チャンネル2
(デリミタ、バッファクリア、コード選択、モード)



8－2　コード表

8－2－1　5ビットコード

HEX	ALPHA	SYMBOL	HEX	ALPHA	SYMBOL
00	0	0	10	T	5
01	E	3	11	Z	＋
02	LF	LF	12	L	)
03	A	NULL	13	W	2
04	SPACE	SPACE	14	H	NULL
05	S	’	15	Y	6
06	I	8	16	P	0
07	U	7	17	Q	1
08	CR	CR	18	O	9
09	D	NULL	19	B	?
0A	R	4	1A	G	NULL
0B	J	BELL	1B	SHIFT	SHIFT
0C	N	,	1C	M	.
0D	F	SPACE	1D	X	／
0E	C	:	1E	V	＝
0F	K	(	1F	SHIFT	SHIFT

8－2－2　6ビットコード

キー			6単位符号						キー			6単位符号					
下段	中段	上段	1	2	3	4	5	6	下段	中段	上段	1	2	3	4	5	6
ア	＊		●	○	○	●	●	●	ホ	1	Q	○	●	●	○	○	●
イ	ヰ	G	○	○	○	●	○	●	マ	ヌ	H	○	●	●	○	●	○
ウ	7	U	○	○	●	●	○	○	ミ	?		●	●	○	●	●	●
エ	ヱ	L	●	○	●	●	●	●	ム	¥		●	○	○	○	●	●
オ	ヲ	V	○	●	○	○	●	●	メ	£		●	●	●	○	○	○
カ	レ	D	○	●	○	●	●	○	モ	$		●	○	●	●	○	●
キ	）	B	○	○	○	●	●	○	ヤ	0	P	●	○	●	○	○	○
ク	3	E	○	○	●	○	●	○	ヨ	6	Y	○	●	●	●	○	○
ケ	#		●	○	○	○	○	●	ラ			●	●	●	●	○	○
コ	4	R	○	○	○	○	○	●	リ	.	K	○	○	●	○	○	●
サ	:	J	○	●	●	●	●	○	ル	’		○	●	●	○	○	○
シ	ソ	F	○	○	●	○	●	●	ロ	＝	&	●	○	○	○	●	○
ス	／		○	●	○	○	○	●	ワ	@		●	○	●	●	○	○
セ		X	○	○	●	●	●	○	ン	8	I	○	○	○	○	●	●
タ	ユ	S	○	●	○	○	●	○	”	°		○	●	●	●	○	●
チ	5	T	○	●	○	●	○	●	上　段			●	○	●	●	●	○
ツ	」	N	○	○	○	●	●	●	中　段			○	●	●	○	●	●
テ	,	C	○	○	●	●	●	●	下　段			○	●	●	●	●	●
ト			●	●	○	●	○	●	改　行			○	○	●	○	○	○
ナ	9	O	○	○	●	●	○	●	復　帰			○	○	○	○	●	○
ニ	＋	Z	○	●	○	●	●	●	後　退			●	●	●	○	●	●
ネ	%		●	○	●	○	●	○	消　去			●	●	●	●	●	●
ノ		M	●	○	○	●	●	○	間　隔			○	○	○	●	○	○
ハ	ー	A	○	●	○	●	○	○	空　白			○	○	○	○	○	○
ヒ			●	●	○	○	○	○	信　号			●	○	○	○	○	○
フ	2	W	○	●	○	○	○	○	始　め			●	●	●	●	○	●
ヘ			●	●	●	○	○	●	終わり			●	●	●	●	●	○

◆ 6ビットの始めは8ビットのSTXに変換される。
◆ 6ビットの終わりは8ビットのETXに変換される。
◆ 6ビットの001111は8ビットの01011110(ポンド)に変換される。
◆ 8ビットのSTX及び[は6ビットの始めに変換される。
◆ 8ビットのETX及び]は6ビットの終わりに変換される。

※ コード表は日本規格協会JISハンドブックより引用

付録．TERM WINユーザーズマニュアル

1　概　要

このマニュアル（付録）は、RS232C簡易通信プログラムTERM WINの使用方法について説明しています。

TERM WINは、キーボード入力データのRS232Cポートへの送信、及び画面表示、RS232Cポートからのデータ受信、及び画面表示を行うプログラムです。

TERM WINを使用するに当たって、Windows98以上のDOS-Vパソコンが必要です。

ご注意　本プログラムは、特定の機種による動作確認のみを行ったサービス品ですので、つぎの点にご注意の上ご使用ください。

◆プログラムの開発に当たっては、DOS/V仕様機での動作を前提にしておりますが、機種によっては動作しないことも考えられます。このような場合でも、弊社は保証いたしません。

◆本プログラムは、使用者の責任においてご使用ください。万一、ご利用による不利益や損害が生じた場合でも、弊社は責任を負いかねます。

◆本プログラムのコピー、及び配布は認めておりません。コピー、及び配布は絶対に行わないでください。

2　TERM WINディスクの内容

TERM WINディスクには、つぎのファイルが含まれています。

Tw1220.exe：アプリケーション
└→ 解凍 →
- Termw10.cnt：CNTファイル
- Termw10.hlp：ヘルプファイル
- TermWin.exe：実行ファイル
- TERMWIN.ini：設定ファイル
- TERMWIN.stf：STFファイル

3　動作環境

パソコン：DOS-Vパソコン，OS：Windows98以上，メインメモリ：640Kバイト以上

4　基本仕様

画面表示	カラー、モード 送信データを水色、受信データを白色で表示
エラー表示	通信条件の不一致、パリティエラー等で正常な受信が行われない場合は、当該受信データをブリンク（点滅）表示
バッファ容量	送信バッファ、受信バッファ共に4Kバイト

5　起動と終了

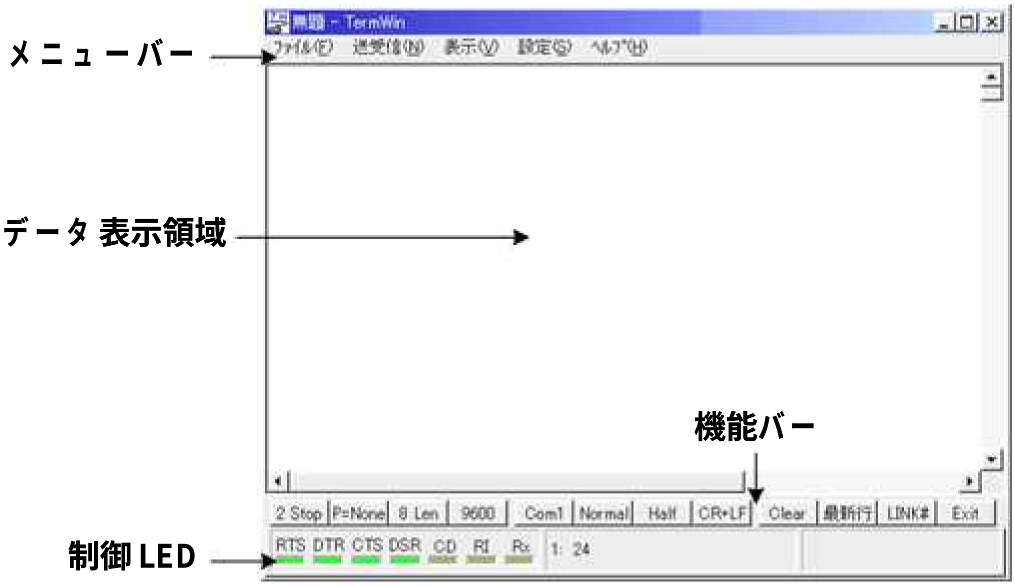
TERM　WINの起動

①TERM　WINディスクをパソコンのCDドライブに挿入します。
②保存先に指定するフォルダを新規に作成し、[Tw1220.exe]をコピーします。
③[Tw1220.exe]をダブルクリックし、解凍先に②のフォルダを指定すると、5つのファイルが表示されます。
④[TERMWIN.EXE]ファイルアイコンをダブルクリックして起動します。
⑤メイン画面が表示され、使用可能な状態になります。

TERM　WINの終了

[F12]キーまたは、右下の [Exit]ボタンで終了します。

6　メイン画面



データ表示領域	送受信データが表示されます。
制御LED	RTS、DTR、CTS及びDSR制御ラインの状態が表示されます。
機能バー	では、ファンクションキーに[通信速度の変更]等の各種機能が割り当てられています。 機能バー内の四角は左から順に[FI]キー～[F12]キーに対応しており、各種機能や通信速度等の現状を表しています。 尚、空白の四角は、対応するファンクションキーに何も機能が割り当てられていないことを表しています。

7　各種機能

◆ストップビット長の選択　　[2Stop] ボタン
ストップビット長を選択します。
キー　　：[F1]キー
ストップビット長：1/1.5/2 (ビット)
初期値　：2

◆パリティの選択　　[P=None] ボタン
パリティを選択します。
キー　：[F2]キー
パリティ：none (なし) /even (偶数)/odd (奇数)
初期値　：none

◆データ長の選択　　[8Len] ボタン
データ長を選択します。
キー　：[F3]キー
データ長：7/8 (ビット)
初期値　：8

◆通信速度の選択　　[9600] ボタン
通信速度を選択します。
キー　：[F4]キー
通信速度：1200/2400/4800/9600/19200 /28800/38400/57600/76800/115200

◆シリアルポートの選択　　[Com1] ボタン
シリアルポートを選択します。
キー　：[F5]キー
初期値　：Com1

◆送受信データの表示形式の選択　　[Normal] ボタン
送受信データの表示形式を選択します。
キー　：[F6]キー
表示形式：normal (キャラクタ表示) / hex (16進数表示)
初期値　：normal

◆送信データの表示／非表示の選択　　[Full] ボタン
送信データの表示／非表示を選択します。
キー　　：[F7]キー
表示／非表示：Full (表示) /Half (非表示)
初期値　　：Full

◆デリミタコードの選択　[CR + LF] ボタン

[Enter] キーを押下した時に送出するデリミタコードを選択します。

キー　：[F8] キー

デリミタコード：CR (0Dhのみ送出) /CR + LF (0Dhと0Ahを送出)

初期値　：CR + LF

◆データ表示領域のクリア　[Clear] ボタン

データ表示領域をクリアし、カーソルを表示領域左上隅に移動します。

キー　：[F9] キー

※ キーボード入力の誤打をクリアする機能ではありません。

◆コマンドキーワードの送出　[LIK#] ボタン

[F8] キーを押下する度に LINK# の文字列を送出します。この文字列は、弊社製マルチプレクサのデフォルトのコマンドキーワードです。

キー　：[F11] キー

◆TERM WINの終了　[Exit] ボタン

本プログラムを終了します。

キー　：[F12] キー

◆固定文字列の送出

64バイトの固定文字列を指定回数分送出することが可能です。

その他、送信間隔等も指定できます。

キー　：[Shift] キー＋[F1] キー

[送信] ボタンをクリックし、固定文字列の送出を開始します。

固定文字列の送出を中止するには [ESC] キーを押下します。

◆ RTSラインの ON/ OFF 選択

[Shift] キー＋[F2] キーを押下すると、RTSラインが ON/OFF交互に切り替わります。

キー　：[Shift] キー＋[F2] キー

初期値　：ON

◆ DTRラインの ON/ OFF 選択

[Shift] キー＋[F3] キーを押下すると、DTRラインが ON/OFF交互に切り替わります。

キー　：[Shift] キー＋[F3] キー

初期値　：ON

WP-03-100922

RS232C 簡易通信プログラム TERM WIN

取扱説明書 (付録版)

2010年9月　第3版

保証規定

1　当社製品は、当社規定の社内評価を経て出荷されておりますが、保証期間内に万一故障した場合、無償にて修理させていただきます。お買い求めいただいた製品は、受領後直ちに梱包を開け、検収をお願い致します。
デークリンク製品の保証期間は、当社発送日より1カ年です。
保証期間は、製品貼付のシリアルナンバーで管理しています。
保証書はございません。
なお、本製品のハードウエア部分の修理に限らせていただきます。

2　本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の障害について、当社はその責任を負わないものとします。

3　次のような場合には、保証期間内でも有償修理になります。
(1)　お買い上げ後の輸送、移動時の落下、衝撃等で生じた故障および損傷。
(2)　ご使用上の誤り、あるいは改造、修理による故障および損傷。
(3)　火災、地震、落雷等の災害、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損傷。
(4)　当社製品に接続する当社以外の機器に起因する故障および損傷。

4　無償保証期間経過後は有償にて修理させていただきます。補修用部品の保有期間は原則製造終了後5年間です。
なお、この期間内であっても、補修部品の在庫切れ、部品メーカの製造中止などにより修理できない場合があります。

5　次のような場合有償でも修理出来ない時があります。PCB基板全損、IC全損など、故障状態により修理価格が新品価格を上回る場合。

6　製品故障の場合、出張修理は致しておりません。当社あるいは販売店への持ち込み修理となります。

7　上記保証内容は、日本国内においてのみ有効です。

ユーザサポートのご案内

RSBUFiに関するご質問、ご相談は、ユーザサポート課までお問い合わせ下さい。

データリンク株式会社　ユーザサポート課

TEL04-2924-3841(代)　FAX04-2924-3791　E-mail: support@data-link.co.jp

受付時間　月曜～金曜(祝祭日は除く)

AM9:00～PM12:00　PM1:00～PM5:00

RSBUFi　取り扱い説明書　2011年4月　第16版

製造、発売元　データリンク株式会社

〒359-1118　埼玉県所沢市けやき台2-32-5

TEL04-2924-3841(代)　FAX04-2924-3791